

美学・西洋美術史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
美学特論Ⅰ	美学特論Ⅰ	2	FONGARO ENRI CO	2学期	水	2	1	対応科目なし
美学・西洋美術史特論Ⅰ	ネーデルラント美術とは何か	2	尾崎 彰宏	1学期	金	3	2	美学・西洋美術史特論 Ⅰ
美学・西洋美術史特論Ⅱ	ネーデルラント絵画と感性の論理	2	尾崎 彰宏	2学期	金	3	3	美学・西洋美術史特論 Ⅰ
芸術学特論Ⅰ	古代ギリシアのヘレニズム美術	2	芳賀 京子	集中(1学期)			4	芸術学特論
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	美学・西洋美術の諸問題	2	尾崎 彰宏	1学期	金	5	5	美学・西洋美術史研究 演習Ⅰ
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	美学・西洋美術の諸問題	2	尾崎 彰宏	2学期	金	5	6	美学・西洋美術史研究 演習Ⅱ
美学研究演習Ⅰ	美学研究演習Ⅰ	2	FONGARO ENRI CO	1学期	木	5	7	西洋美術史研究演習Ⅰ

科目名：美学特論Ⅰ／Aesthetics(Advanced LectureⅠ)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

学期：2学期，単位数：2

担当教員：FONGARO ENRICO（准教授）

講義コード：LM23207，科目ナンバリング：LIH-ART608J，使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

美学特論Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Aesthetics(Advanced LectureⅠ)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を読み、理解する。この文献に基づき、美学の専門的なテーマについて分析、考察する。

4. 学習の到達目標：

西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を対照しながら、美学の専門的なテーマについて分析、考察を行う。本年度は、ハイデガーの美学を中心的に取り上げ、芸術作品とは何かについて特に論ずる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 西洋美学史とは
2. 導入 現代美学について
3. 芸術作品とは
4. ハイデガーと20世紀の哲学
5. ハイデガーの美学：『芸術作品の起源』
6. 『芸術作品の起源』の背景としての『存在と時間』(1)
7. 『芸術作品の起源』の背景としての『存在と時間』(2)
8. 『芸術作品の起源』の背景としての『存在と時間』(3)
9. 『芸術作品の起源』(1)
10. 『芸術作品の起源』(2)
11. 『芸術作品の起源』(3)
12. 『芸術作品の起源』(4)
13. 『芸術作品の起源』(5)
14. まとめ
15. 期末試験

6. 成績評価方法：

定期試験(100%)。

7. 教科書および参考書：

マルティン・ハイデガー、『芸術作品の起源』。

8. 授業時間外学習：

Martin Heidegger, Der Ursprung des Kunstwerkes.

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史特論Ⅰ／Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture I)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM15307， 科目ナンバリング：LIH-ART609J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 美学・西洋美術史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

ネーデルラント美術とは何か

2. Course Title (授業題目)：

What is the Netherlandish art?

3. 授業の目的と概要：

現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術がその背景をなす美学とどのような関係をもちながら、生みだされたのかを探っていききたい。その問題と並行して、アルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのか、アルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていききたい。受講生は、美術作品を通して、その時代の美学とそれがどのように社会や文化の形成にかかわって行ったのかを学ぶことになる。

現在研究中の課題であり、1 回目の授業において、特論のおおよその見取り図を示す。

4. 学習の到達目標：

美術作品とその時代の美学を学ぶアプローチは多様である。この授業では、鑑賞者の感性が作品解釈にどのようにかわるのか、受容美学の視点から考えてみたい。そこから、芸術がどのようなアクチュアリティをもつのかを考え、新たな美学理論の可能性を探りたい。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：初期ネーデルラント美術とその美学Ⅰ：ファン・エイクを中心に

第3回：初期ネーデルラント美術とその美学Ⅱ：ロヒール・ファン・デル・ウェイデンからメムリンクまで

第4回：初期ネーデルラント美術とその美学Ⅲ：写実性から観念性への転換

第5回：16世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅰ：ボッスの新しさ

第6回：16世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅱ：ロマネストの芸術

第7回：16世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅲ：「故郷」の発見

第8回：17世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅰ：イコノクラスムからジャンルの多様性へ

第9回：17世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅱ：風俗画の成立

第10回：17世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅲ：静物画の成立

第11回：レンブラントⅠ 初期様式と同時代芸術

第12回：レンブラントⅡ：中期と工房

第13回：レンブラントⅢ：後期様式と市場

第14回：18世紀ネーデルラント美術とその美学

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポート、テストを総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

講義で紹介した文献を自分で参照したり、美術館で作品を実際に見たりする作業が必要。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史特論Ⅱ／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture II)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM25304， 科目ナンバリング：LIH-ART610J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 美学・西洋美術史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

ネーデルラント絵画と感性の論理

2. Course Title (授業題目)：

Netherlandisch Paintings and the Logic of Sensibility

3. 授業の目的と概要：

現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術がその背景をなす美学とどのような関係をもちながら、生みだされたのかを探っていききたい。その問題と並行して、アルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのか、アルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていききたい。受講生は、美術作品を通して、その時代の美学とそれがどのように社会や文化の形成にかかわって行ったのかを学ぶことになる。

現在研究中の課題であり、1 回目の授業において、特論のおおよその見取り図を示す。

4. 学習の到達目標：

美術作品とその時代の美学を学ぶアプローチは多様である。この授業では、鑑賞者の感性が作品解釈にどのようにかわるのか、受容美学の視点から考えてみたい。そこから、芸術がどのようなアクチュアリティをもつのかを考え、新たな美学理論の可能性を探りたい。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：15 世紀前半のネーデルラントにおける美術市場の誕生Ⅰ

第3回：15 世紀後半のネーデルラントにおける美術市場の誕生Ⅱ

第4回：16 世紀南部ネーデルラントにおける美術市場の展開Ⅰ

第5回：16 世紀北部ネーデルラントにおける美術市場の展開Ⅱ

第6回：偶像破壊運動と絵画ジャンルとそこに見られる美学

第7回：偶像破壊運動と絵画ジャンルの多様化と芸術論Ⅱ

第8回：17 世紀オランダにおける美術市場と新たな美意識の誕生

第9回：17 世紀オランダにおける美術市場の発展と絵画の黄金時代Ⅰ

第10回：ルーベンスの芸術論第9回：17 世紀オランダにおける美術市場の発展と絵画の黄金時代Ⅱ

第11回：ルーベンス工房と絵画市場Ⅱ

第12回：レンブラント工房と絵画市場Ⅰの芸術論

第13回：レンブラント工房と絵画市場Ⅱ

第14回：南北一デルランの絵画市場から18 世紀フランスへ——自由の美学の誕生へ

第15回：まとめ

定期試験は行わない。

6. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポート、テストを総合的に評価する

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

講義で紹介した文献を自分で参照したり、美術館で作品を実際に見たりする作業が必要。

9. その他：なし

科目名：芸術学特論Ⅰ／Aesthetics and Arts (Advanced LectureⅠ)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1学期)、 単位数：2

担当教員：芳賀 京子（非常勤講師）

講義コード：LM98830、 科目ナンバリング：LIH-ART611J、 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 芸術学特論 】

1. 授業題目：

古代ギリシアのヘレニズム美術

2. Course Title (授業題目)：

Hellenistic Greek Art

3. 授業の目的と概要：

ヘレニズム時代（前4世紀末～前1世紀末）のギリシア美術は、それまでの遺産を引き継ぎながらも、新しい時代にかなう形式を獲得した。様式もより多様な人々に感動を与えるものへと変化し、その後のローマ美術へと引き継がれた。肖像や戦勝モニュメントといった政治的美術、神域における宗教美術、そしてローマ人にとってのヘレニズム美術について見ていくことにしたい。

4. 学習の到達目標：

ヘレニズム美術の特徴について理解し、その代表作についての知識を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 君主の肖像 ①アレクサンドロスの肖像
- 3 君主の肖像 ②ヘレニズム君主の肖像と君主崇拝
- 4 戦争と美術 ①伝統的戦闘図
- 5 戦争と美術 ②海戦の勝利
- 6 戦争と美術 ③他者の表現
- 7 戦争と美術 ④競い合うモニュメント
- 8 神と人間 ①巨大な神々
- 9 神と人間 ②身近な神々
- 10 神と人間 ③神話表現
- 11 神と人間 ④美の多様化
- 12 ローマ人とヘレニズム美術 ①ローマ人の肖像
- 13 ローマ人とヘレニズム美術 ②ローマの神々
- 14 ローマ人とヘレニズム美術 ③私的領域
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

レポートによる

7. 教科書および参考書：

参考書：芳賀京子・芳賀満『西洋美術の歴史1 古代』中央公論新社、2017年

8. 授業時間外学習：

配布資料を用いて復習するとともに、授業のなかで興味を持ったテーマについて、自分で調べ、考察する。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅰ／Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced SeminarⅠ)

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

学期：1学期，単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM15504，科目ナンバリング：LIH-ART612J，使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者)対応科目名： 美学・西洋美術史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

美学・西洋美術の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Problems of Methodology on Western Art History

3. 授業の目的と概要：

美学・西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる方法について議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。

4. 学習の到達目標：

美学・西洋美術史の最新研究を学びながら、ルネサンス以降の美術と芸術論（美学）の研究動向を学ぶことができる。作品をマテリアルなものとしてだけでなく、その時代の社会や美意識が深くかかわっていることを理解する能力が身につく。と同時に、英文を精読するスキルが身につく。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回： イントロダクション

第2回： 初期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅰ

第3回 盛期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅱ

第4回 後期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅲ

第5回 初期ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅰ

第6回 16世紀ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅱ

第7回 イコノクラスム期ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅲ

第8回 17世紀前半のオランダ美術とその美学関係文献Ⅰ

第9回 17世紀後半のオランダ美術とその美学関係文献Ⅱ

第10回 17世紀前半のフランドル美術とその美学関係文献Ⅰ

第11回 17世紀後半のフランドル美術とその美学関係文献Ⅱ

第12回 近世・近代18世紀美術とその美学関係文献Ⅰ

第13回 近世・近代19世紀美術とその美学関係文献Ⅱ

第14回 近世・近代20世紀美術とその美学関係文献Ⅲ

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポートを総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

プリントを配布し、必要なことは教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要がある、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

9. その他：なし

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar II)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM25504， 科目ナンバリング：LIH-ART613J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 美学・西洋美術史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

美学・西洋美術の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Problems of Methodology on Western Art History

3. 授業の目的と概要：

美学・西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる方法について議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboek に掲載された論文を中心に取りあげる。

4. 学習の到達目標：

美学・西洋美術史の最新研究を学びながら、ルネサンス以降の美術と芸術論（美学）の研究動向を学ぶことができる。作品をマテリアルなものとしてだけでなく、その時代の社会や美意識が深くかかわっていることを理解する能力が身につく。と同時に、英文を精読するスキルが身につく。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回： イントロダクション

第2回： 初期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅰ

第3回 盛期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅱ

第4回 後期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅲ

第5回 初期ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅰ

第6回 16世紀ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅱ

第7回 イコノクラスム期ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅲ

第8回 17世紀前半のオランダ美術とその美学関係文献Ⅰ

第9回 17世紀後半のオランダ美術とその美学関係文献Ⅱ

第10回 17世紀前半のフランドル美術とその美学関係文献Ⅰ

第11回 17世紀後半のフランドル美術とその美学関係文献Ⅱ

第12回 近世・近代18世紀美術とその美学関係文献Ⅰ

第13回 近世・近代19世紀美術とその美学関係文献Ⅱ

第14回 近世・近代20世紀美術とその美学関係文献Ⅲ

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポート、テストを総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要がある、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

8. 授業時間外学習：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要がある、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

9. その他：なし

科目名：美学研究演習Ⅰ／Aesthetics(Advanced SeminarⅠ)

曜日・講時：前期 木曜日 5講時

学期：1学期，単位数：2

担当教員：FONGARO ENRICO（准教授）

講義コード：LM14502，科目ナンバリング：LIH-ART614J，使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名：西洋美術史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

美学研究演習Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Aesthetics(Advanced SeminarⅠ)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を精読し、理解する。美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論をする能力を養う。

4. 学習の到達目標：

西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を対象しながら、美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論を行う。

5. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. ドゥルーズとは誰か
2. ドゥルーズとシネマ
3. 『シネマ1』：運動に関するテーゼ
4. 『シネマ1』：フレームとショット
5. 『シネマ1』：モンタージュ
6. 『シネマ1』：モンタージュ
7. 『シネマ1』：イメージとは
8. 『シネマ1』：知覚イメージ
9. 『シネマ1』：感情イメージ
10. 『シネマ1』：欲動イメージ
11. 『シネマ1』：行動イメージ
12. 『シネマ2』：時間イメージ
13. 『シネマ2』：時間イメージ
14. 『シネマ2』：時間イメージ
15. 試験

6. 成績評価方法：

授業中に指示した文献に関する口頭試験（100%）。

7. 教科書および参考書：

ジル・ドゥルーズ、『シネマ1、運動イメージ』、『シネマ2、時間イメージ』。

8. 授業時間外学習：

Gilles Deleuze, Cinema 1, L'image-mouvement; Cinema 2, L'image-temps.

9. その他：なし

毎回の授業後に、授業でとりあげた映画を見ることが必須である。映画の上映については授業時に詳しく説明する。